

# 会 議 録

審議会等名	平成 30 年度 第2回三条市学校給食運営委員会		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成 31 年2月 20 日(水) 午後2時～3時 15 分		
開催場所	三条市役所 栄庁舎3階 大会議室	傍聴者の有無	有
出席者	<p>委員 14 人</p> <p>小林委員(裏館小学校長) 高橋委員(栄北小学校長) 長谷川委員(大島小学校長)</p> <p>八幡委員(本成寺中学校長) 八木委員(下田中学校長) 野崎委員(一ノ木戸小 PTA)</p> <p>高橋委員(裏館小 PTA) 大桃委員(月岡小 PTA) 亀山委員(保内小 PTA)</p> <p>菊地委員(大面小 PTA) 内山委員(第一中 PTA) 佐藤委員(第三中 PTA)</p> <p>捧委員(三条市監査委員) 高德委員(三条地域振興局)</p> <p>事務局 19 人</p> <p>長谷川教育長 栗山教育部長 遠藤教育総務課長</p> <p>高橋小中一貫教育推進課長 澁谷大崎学園校長 志賀嵐南小学校長</p> <p>島岡一ノ木戸小学校長 高野共同調理場長 小川栄養教諭(井栗共同)</p> <p>田崎栄養教諭(嵐南共同) 長谷川栄養主査(裏館共同) 宮路栄養職員(栄共同)</p> <p>関谷栄養教諭(下田共同) 三浦栄養教諭(一ノ木戸小) 山本栄養教諭(嵐南小)</p> <p>平原栄養教諭(大崎学園) 外山職員(教育総務課) 丸山職員(教育総務課)</p> <p>古澤職員(教育総務課)</p>		
議題等	<p>報 告 平成 30 年度(第1・2学期)三条市学校給食調理場給食費会計収入支出状況について</p> <p>議 題 平成 31 年度三条市学校給食調理場給食費会計収入支出予算(案)の承認について</p> <p>その他 (1) 学校給食残量調査結果の報告について</p> <p>(2) ドリンクタイムについて</p> <p>(3) 学校給食調理等業務の民間委託について</p>		
【開 会 前】	(三条市教育委員会長谷川教育長挨拶)		
【開 会】			
小林会長	報告 (1) 平成 30 年度(第1・2学期)三条市学校給食調理場給食費会計収入支出状況について		
捧 委 員	<p>平成 31 年2月 13 日に八木委員、菊地委員の3人で平成 30 年度第1・2学期三条市学校給食調理場給食費の会計監査を行いました。関係職員の説明を受け、収入支出の状況について関係諸帳簿、預金通帳及び証憑類の確認を行いました。その結果、数値は適正であり確実に執行されていたことを報告します。</p>		

	<p>質疑に入るが質疑なく、拍手で承認</p> <p>議題 (1) 平成 31 年度三条市学校給食調理場給食費会計収入支出予算(案)の承認について</p> <p>質疑に入るが質疑なく、拍手で承認</p> <p>その他 (1) 学校給食残量調査結果の報告について</p>
野崎委員	今後の取組について、パン・麺は引き続き提供していくのか。
高野場長	30年度は年間5回パン・麺を提供したが、31年度も同様の回数を実施予定である。
野崎委員	<p>三条産小麦について、三条市では私を含め2軒の農家しか作っていない。私に関しては、今年小麦を作付けしていない。単純に考えて生産量が半分となった。絶対量が足りないし、そもそも生産した小麦を出荷する先は決まっている。不足する可能性の方が高いが使用されない場合もあるのか。</p> <p>また、小麦アレルギーを持つ児童・生徒がいることも踏まえて、米粉ではダメなのか。昨年も言ったが、麦ごはんは今後も提供し続けるのか。子どもたちにはやはり不人気である。食育の観点から栄養価があるものを提供する気持ちも分かるが、美味しくて栄養価のあるものを提供してほしい。</p> <p>また、米に関してコシヒカリ 100%で価格的に難しいようであれば他の品種を提供することも検討してほしい。米どころ新潟で米飯給食をいち早く取り入れた三条市だからこそ、様々な品種があることを教えてほしい。学校と生産者との交流の一環として、今年度一ノ木戸小学校5年生に米の作り方を教えた。学校給食で提供してもらい、大変好評だった。中学生からは、「野崎さん家のお米懐かしいね。」と言った声が聞かれた。子どもたちは自分たちが育て食べた味を覚えていることを改めて感じた。</p> <p>私は野菜についても生産している。学校給食は年間を通して仕入れ先が決まっていると思うが、年に数回だけでも突発的に生産者から提供できる機会を設けてほしい。</p>
遠藤課長	小麦について、作付けしない実態を今初めて知った。地元三条市で小麦を生産していることを子どもたちに知ってもらいたいと思いついて提供を始めた取組なので、次年度以降絶対量が不足するかどうかについては確認をするが、可能であれば継続して提供していきたいと考えている。麦ごはんについては、献立の中で工夫をして気にならないような提供方法を考えている。食べにくいという声が今後も多くなるようであれば検討していく必要があると思っている。
高野場長	生産者からの食材提供については、これから情報収集を行い進め方など検討していきたい。
野崎委員	麦ごはんについて、「食べにくい。」という声は子どもたちだけでなく保護者からも多く聞かれる。地産地消を進めるのであれば米 100%で検討してほしい。そば粉も下田地区で生産している。アレルギーも関係してくる話なので難しいとは思いますが、立派な和食のひとつだと思うので提供の検討をしてほしい。
高野場長	前向きに検討していく。
佐藤委員	学校別牛乳の残食率について、上林小と第三中がかなり高いが理由は把握しているか。また、ドリンクタイムの見直しを行った学校はどこか。
遠藤課長	ドリンクタイムの見直しを行った学校は、上林小、旭小、西鱈田小、保内小、大島小、須頃小、栄北小、大面小、長沢小、笹岡小、大浦小、森町小、飯田小及び大島中の小学校 13 校、

	<p>中学校1校の計 14 校である。上林小と第三中での残量が多くなった要因として、牛乳が苦手な児童・生徒がいることや、元々食が細い子がいることなど、様々な要因が重なったものと考えている。</p>
菊地委員	<p>残量調査は、前もって学校への周知はあるのか。</p>
高野場長	<p>毎年 11 月に県が行う栄養摂取状況の調査と同じ期間に実施しているものである。</p>
菊地委員	<p>保護者の間では、11 月は収穫祭があり給食前に満腹になる児童・生徒が多いと聞いている。あえてこの期間に調査していいのかなと少し疑問に思った。</p>
高野場長	<p>実施日について可能な限り学校行事等と調整する必要があった。指定の期間で1日しか残量調査を実施できない学校もあった。そういったことも踏まえ次年度以降検討していく必要があると思う。</p>
菊地委員	<p>子どもの人数は減っているが、補助金は年々増額しているのか。</p>
遠藤課長	<p>三条市や JA からの補助金であるが、人数だけでなく米の価格が関係してくる。県学校給食会が扱う統一方式米と三条市が独自に購入している米との差額を補助金で補っている。価格差の変動によって補助金も増額している。</p>
	<p>その他 (2) ドリンクタイムについて</p>
菊地委員	<p>ドリンクタイムで牛乳を飲む場合、おかわりはできないのか。</p>
高野場長	<p>余った牛乳については、飲める児童・生徒が飲んでいる場合もあると考える。しかし、この場合だと残量調査では正確な数値は出てこない。</p>
小林会長	<p>先ほどの説明資料の中で、見直しのグラフについては小・中合わせた数値か。</p>
遠藤課長	<p>先ほど申し上げた時間帯の見直しを行った 14 校をまとめたものである。</p>
八木委員	<p>和食と牛乳が合わないことは理解している。学校としては、ドリンクタイムを月曜から木曜に実施、金曜はお茶だから給食と一緒に提供、パンの日は牛乳であっても一緒に提供、麺の日はドリンクタイム実施など煩雑で様々なパターンがあり悩みの一つである。提供するメニューによって牛乳を飲む時間が変わってしまうのであれば、三条市の給食では牛乳を提供しなければいいのではないか。その分家庭において、朝と夜に飲んでもらえるよう三条市から割引券などの補助を出すなどの対応をしてはどうか。三条市に赴任して美味しい給食が毎日食べられることに非常に感謝している。だからこそ、牛乳によって煩雑な対応が生まれてしまっていることが残念である。</p>
遠藤課長	<p>ドリンクタイムの導入に伴い、学校からの意見も聞いている。ドリンクタイムの目的としては、給食と牛乳を切り離すことによって両方をしっかり食べてもらい、残食率を減らしたいという思いがある。家庭で牛乳を飲んでほしいという意見も分かるが、ある程度子どもたちは家庭で牛乳を飲んでいてと思っている。家庭だけにとどまらず、学校給食の中でも牛乳を提供して、給食全体での栄養価を高めていきたい。給食も牛乳も両方しっかり摂取できるようドリンクタイムの在り方を整えていきたいと思っている。</p>
佐藤委員	<p>一時的に牛乳を提供しない時期があったと思う。自分の子どもに牛乳をいつ飲んでいるか聞くと、「ドリンクタイムはあるが、給食と同じ時間に飲んでいてる子もいる。」と言っていた。子どもた</p>

八幡委員	<p>ちの中には牛乳が嫌いな子や逆に牛乳が好きだから2本3本と飲む子もいる。和食と合わないのは分かるが、子どもにとっては必要な栄養である。学校での指導やドリンクタイムの導入により、残食率が少しでも少なくなるよう取り組んでほしい。</p> <p>本成寺中学校の生徒の様子を見ていると、時間になったら牛乳を班ごとに配ることにしている。給食を食べながら飲んでいる生徒はいない。しかし、給食を食べ終わってからだと満腹で飲めない生徒が多くいる。校内で残量調査を独自に実施する場合は、残食率がほぼゼロに近くなるが終わった途端多く残ってくる。給食の残量をなくす関係でドリンクタイムを給食から切り離すという考えも分かるが、時間の捻出が難しいのが実態である。今年度は単学級の学校で実施し成果が上がっているのも見えているが、学校側の苦労もあったと思う。同じ学区の西鱈田小においては、ドリンクタイムで給食とは切り離して牛乳を飲んでいるが残量が多い。数日の調査だけでは分からないところが多い。給食と牛乳を飲む時間を切り離し、どちらもきちんと摂取してほしい気持ちも分かるが、やはり学校では時間の捻出が難しいことも理解してほしい。</p>
菊地委員	<p>保護者の中には、牛乳は学校で飲むものという考えを持っている人も多く、家庭で牛乳を購入することに抵抗があるという声も聞く。様々な考えや意見を持つ家庭がある中で取りまとめは大変だと思うが、いろいろな取組をしてもらい感謝している。</p>
高橋委員	<p>ドリンクタイムと給食を切り離すことにやはり疑問を感じる。和食でいくと決めたわりには、パンがあつたり麺があつたり、三条市の学校給食がどうしたいのか方向性が見えない。和食一本でいくのならそうしてほしい。全体像が見えないまま運営委員の2年が過ぎた。給食を提供してもらって非常に助かるが疑問は残ったままである。</p>
捧委員	<p>三条市は完全米飯給食をスタートさせた。米飯と牛乳が合わないから数か月間牛乳を廃止した時期もあった。しかし、栄養価などの問題もあり牛乳をドリンクタイムという形で再開させた。今いろいろな意見が出たこのタイミングでもう一度原点に戻り給食を見直す機会にしてはどうかと思う。</p>
【開	<p>その他 (3) 学校給食調理等業務の民間委託について</p>
会】	<p>質疑に入るが、質疑なく終了</p>
高橋副会長	<p>本日栄北小学校ではボランティアの方から読み聞かせを行っていただきました。その中で「干したから」という本がありました。農産物などの食材を干すことによって保存がきく、より美味しくなるという内容でした。本の中で知恵を食べるという事も出てきました。先月給食週間で和食についての取組がありましたが、給食を食べることは和食の文化を食べることだと思います。今日の話の中でもありましたが、給食を作る人、生産者、そういった方々の思いを食べることが給食なんだと改めて思いました。考えることは様々あるが、三条市の給食はただ食べるだけ、ただ栄養を取るだけの給食ではなく豊かな給食を提供してもらっていると思っています。その給食の意味を引き出したり、思いを伝えるのは、私たち大人の役割だと思います。そういったことを改めて考える場でした。本日はありがとうございました。</p>